

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271700084		
法人名	社会福祉法人 仁摩福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 しおさい		
所在地	島根県大田市仁摩町仁万843		
自己評価作成日	平成29年2月7日	評価結果市町村受理日	平成29年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、6名定員の少人数の為、より個々の生活を大切にしている事業所です。特養や短期入所やデイサービスを併設しており、事業所間の交流や行事への参加など協力体制が整っています。季節ごとの外出や、地域のイベントに出掛け、地域の方との出会いや再会の場面が多くみられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の話を良く聞いて、利用者のことを理解し、家庭的な雰囲気大切にしている。日中は2名の職員体制をとっているが、利用者の希望を聞いて手作りの食事を提供し、地域ならではの新鮮な魚を仕入れ、骨付きの魚料理を食べてもらう日もある。利用者は「新鮮でおいしい」と喜んで食べている。これまでは終末期は法人の施設で対応していたが、家族の希望があり現在、法人の他事業所の協力を得て支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月の法人内全職員研修で事業所理念や事業計画について研修し、事業所毎に自事業所の年度計画を読み合わせ、実施に向けて話し合いました。また10月にも事業所内ミーティングで再度事業計画を読み合わせ実施状況を確認しています。	地域密着型サービスとしての理念を作り、事業計画を立てて全職員で実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	主催者からの声掛けもあり、地元の祭りや催し物に積極的に参加しています。また、買い物や食材配達は、地域の店を利用しています。その他、ボランティアの受け入れ、地元保育所の定期訪問を受け入れています。	文化祭や老人会の発表会など地域の催し物に参加し、ボランティアと一緒にそば打ちや生け花をしたり保育園児と行事を通し交流を図っている。法人として自治会に加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内での活動は不十分ですので、来年度の課題としています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催しています。地域のボランティアの方や団体に声掛けを行い、地域の方との交流に繋がるよう行っています。	利用者の状況や活動などを報告し、質問を受けたり情報や助言をもらいサービス向上に活かしている。	議題によってはオブザーバーとして関係する人に参加してもらうなど工夫して取り組み、さらなる会議の発展を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の機会を使って、相談したり助言を求めています。	運営推進会議で事業所の状況を説明している。介護保険制度での不明なことを相談したり、感染症予防の情報をもらうなど連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「スピーチロックゼロ運動」を事業所に掲示し、言葉かけに注意しています。また職員同士で確認を行っています。	法人研修に参加した職員が伝達し、身体拘束をしないケアを実践している。法人全体で「スピーチロックゼロ運動」に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	9月に法人内の全職員研修において研修しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ実施していないため、今年度中に事業所内ミーティングにて行う予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度2件の入所があり、重要事項説明書等を利用して、ご家族に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談窓口を載せている他、法人内に意見箱を設置しています。また、2カ月に1度運営推進会議を開催するほか、年に2度食事会を開催し、ご家族をお招きしてお話を伺いますが、出席は少数のご家族に限られています。	面会時や運営推進会議で意見を聞くことに努め、年2回食事会を開き交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めと10月に、職員と一緒に事業計画を読み合わせ、意見交換を行いました。	少人数の事業所で職員数も少ないが、申し送り時や日常の業務の中で話し合い意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	12月・1月に人事考課を実施し、職員個々の状況把握を行いました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の年数や意欲・意向に合うような研修を受講させたほか、法人内研修で希望する研修を挙げてもらい、研修を企画しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの見学を受け入れ、その際に情報交換を行ったほか、大田市の事業所連絡会の部会への出席や交流会への出席を周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前にご本人を訪問し、情報を伺いました。また、入所前に利用されている担当ケアマネや事業所から、情報提供を受けました。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定の連絡の際や、入所時の契約の際に意向を伺い対応しました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所決定の連絡の際や、入所時の契約の際に意向を伺ったり、対応について話し合いました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所の特色や目的をご説明し、ご本人のこれまでの生活状況や趣味、意向などを伺ったうえで、どのように生活して頂くかを一緒に考えるようにしています。出来る事は、他のご利用者や職員と一緒に作業して頂きます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず様子を伝えるようにし、遠方の方には電話での連絡を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際には、ゆっくりと会話を楽しんで頂ける場に配慮しています。また、知人の方が、法人内の別事業所に居られる際には、面会に行き来して交流して頂く様にしています。	法人の他事業所を利用している人の面会があったり出身地域の人の面会がある。外泊や法事に帰る人もあり、家族と協力して関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流はあり、また難しい方には、職員が間に入り交流できるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所されたご利用者に、職員と一緒に面会に行く予定にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間をみつけて、ご利用者に個別にお話を伺ったり、入所時や面会時、食事会の時に、ご家族にお話を伺ったりしています。	日頃の関わりの中で思いや意向を聞き、職員同士で情報を共有している。気付きや言葉を記録し支援内容に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には担当ケアマネより情報を頂きます。また、ご利用者や、ご家族にお話を伺ったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子観察、健康チェックを行い、ご利用者と個別に話す時間を持っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段からご利用者の様子について職員同士意見交換を行うほか、ご利用者にお話を伺ったり、入所時や面会時、食事会の時に、ご家族にお話を伺ったりします。また、職員にも意見を求め介護計画に盛り込むようにしています。	利用者の状態や性格、好き嫌い、起床や就寝時間の希望など細やかに把握し、プランに反映させて個別に支援している。毎月モニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代時の申し送りや連絡ノートなども活用し、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の希望により、行きたい場所や食べたい物など提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のスーパーや飲食店を利用してご利用者と一緒に買い物に行ったり外食します。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医のご希望を伺い決定します。利便性からかかりつけ医を変更される方が殆どですが、これまでの病院を継続される方もあります。定期的往診の他、体調に変化のある場合は、かかりつけ医に相談しご指示を仰ぎます。	利用者、家族と話し合い納得した医師の受診を支援している。定期的な往診や家族と受診する人もあり、利用者が健康に暮らせるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐はしていませんが、常に連絡が取れるようにし、随時相談や助言を受けています。必要時、かかりつけ医に看護職員から連絡し、指示があれば家族と共に受診してもらいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、病院の医療相談室や病棟看護師と連携を取っています。また退院時も連絡調整を行いました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護認定の更新の際や入院の際、体調の変化にあわせて、今後の意向を確認したり、特養への入所の希望などを伺い、希望があれば入所申込みの手続きを行っています。	入居時に事業所の方針を説明し、その後、状況変化に合わせて意向を確認し対応について話し合っている。現在、家族の希望でターミナルケアを実践していて、法人他事業所との協力体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署に依頼し、救急法およびAED操作方法の講習を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内で年に2回火災訓練を行っています。法人全体の火災訓練も行い、自治会からの参加もありました。非常災害マニュアルの見直しと地域との協力体制づくりも進めています。	法人として年2回、総合訓練、防災訓練を実施し、事業所としても利用者の避難を一緒に行っている。総合訓練には地域の人も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何かを行う際には、お伺いを立て意志を確認しながら行っています。	羞恥心やプライバシーに対する基本的な接遇マナーを守り利用者に対応している。入浴支援では同性介護に配慮している。居室のドアのガラス部分には暖簾をかけプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「スピーチロックゼロ運動」を事業所に掲示し、言葉かけに注意して、ご本人の要望や気持ちを確かめながら対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物の同行、レクリエーションなど、ご本人に伺いながら、意向を尊重する様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個室のタンス内に個人の洋服が入れてあり、外出時など好きな服を選ばれます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立についてはご利用者の希望を伺いその日に決めています。それぞれの能力に合わせて、一緒に調理や片づけをしています。外食や刺身、惣菜などもメニューに取り入れています。	献立の希望を聞いたり、盛付けや片付けなど、出来る人は一緒に行っている。週1回は刺身を出し、骨付きの魚料理も食べることが出来る。家族交流会では握り寿司や鍋料理を一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入し把握しています。ご利用者に合わせて、飲み物を工夫したり、小さく刻んだりと個別に対応しています。体調不良時には、別メニューで食べやすい食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて促しや介助を行い、毎食後実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1名はベッド上の生活が主となり常時オムツ使用しています。他の5名はトイレに行かれ、個々の状態に応じた介助を行っています。	職員は利用者の表情や動き、様子などを見て声をかけ利用者に合わせて支援をしている。利用者の持っている機能を活かせるように支援の仕方を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握はもちろんです、必要に応じ好みの飲み物で水分量を増やす対応をしています。運動への働きかけが不十分と思います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調により入浴を中止したりしますが、曜日や時間帯については特に希望がなく、定期的に従っています。入浴時間については、ご本人が満足されるよう、ゆっくりと入浴して頂く様にしています。	週に2回は入浴出来るように支援している。体調や職員配置によっては日にちを変え柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やしたり、眠れない時は付き添うなどの対応をすることで、ご利用者の安眠は保たれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出る薬についての説明書を綴り、確認する様にしています。個々の能力に応じて錠剤を粉剤にして頂いたり、内服確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の洗濯物の片付けや食事の準備・片付けの他、日記を書いたり、小物作りを職員とされます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週の買い物の際には、希望される方と一緒にいきます。季節に応じて、希望される場所に出掛けたりします。ご家族には、面会と一緒にの外出をお勧めしています。	職員数が少なく以前に比べると日常的な外出は少なくなっているが、時々食材の買い出しに出かけている。イベントのある時には職員三人体制をとり支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っておられる方はいませんが、今後の支援に活かしていきたいと思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いだり、希望されれば自宅に電話してご家族と話されるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に外出時の写真を掲示したり、季節の花を飾ったりしています。	調理の音や匂いを感じられる造りで、行事の写真や絵、花などを飾り落ち着いて暮らせる環境作りをしている。気になる音もなく、ホールや浴室など適温が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの数か所に椅子やソファを置いており、個々で過ごされたり、ご利用者同士で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、個室を自由に飾って頂く様にお声掛けをしています。またベッドの位置などもご本人と話し、決めています。	希望の物を持参してもらうように話している。化粧品など利用者の希望の物を用意し、以前の暮らしと同じようにベッド、家具などを配置し、安心して暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレなど、入り口に張り紙をして分かり易いよう工夫しています。御利用者の動線に物を置かない、床が濡れたままにしないなど、安全な環境に配慮しています。		